



れきけん ニュースレター

Vol.13



- 特集：土別市大野邸・大野土建旧事務所実測調査
- 日本民俗建築学会平成29年度公開シンポジウムに参加して
- れきけん研修ツアーの報告「聴竹居を訪ねて」
- 全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会
in京都に参加して
- おすすめ・れきけんBOOK

●特集：士別市大野邸・大野土建旧事務所実測調査

れきけんでは、9月6日（水）から9日（土）にかけ、士別市に所在する近代和風建築である大野邸・大野土建旧事務所の保存活用事業の一貫として、実測調査ならびに沿革調査を実施しました。

本建物は、明治45年創業の大野土建株式会社の現会長および社長の祖父にあたる大野直吉の時代に、棟梁佐野浅次郎によって昭和2年に建てられた事務所と住宅の機能を持った木造平屋建ての建物です。

石本監事によると、大野土建は士別市でも最古参の部類に入ると考えられ、この建物の立地については、明治39年の屯田兵制度の廃止により、明治32年に入植した北海道最後の屯田兵村である士別屯田兵村も解体され士別駅を中心とした中心市街の周辺市街地が形成され出す最初期における、屯田兵村の中心施設（中隊本部等）の隣接地であり、士別市の市街形成史からみても象徴的な場所ではないかと思われるとのこと。

現状は3棟から成り、各棟は渡り廊下で接続され、棟ごとに、住居兼事務所、住居、物置として使用されていたと考えられます。

南北の通りに面し、住居兼事務所として使用されていた棟は、旧状を良くとどめており、平入、桁行8間、梁間4間4尺の平屋に北妻側に下屋を出し、切妻、亜鉛鉄板葺き屋根で、屋根棟は縁側部の4尺を除いた4間の芯に位置し、妻面の屋根形状は左右非対称となっています。通りに面した間口と洋間（事務所）がある南妻面には出窓が設けられ、外壁は漆喰（一部黒漆喰）、腰下は下見板張です。内部は、玄関南側に事務室と応接室、北側に仏間と床間、玄関奥に次の間を配し、東側奥の縁側から庭に続きます。洋間である事務室と応接室の壁は漆喰で、応接室には漆喰メダリオンや漆喰レリーフの装飾が施され、出窓の硝子棧の独特な組み方には遊び心が感じられます。一方、仏間、床間、次の間は砂壁で、竿縁天井です。壁の色や組子欄間、額入障子のvariety組子からも遊び心を感じられる意匠がうかがわれます。

これに渡り廊下で繋がる住居、物置として使用させていた2棟は、旧状をとどめているのはわずかに住居棟の庭に面する北面のみで、一部2建てに増改築されています。住居棟の屋根の旧状は、本建物が写されている昭和初期に撮影された数枚の写真から、緩勾配の腰折れ屋根であったと推察されます。

2つの棟をまたぎ、庭に面し矩手に設けられた縁側には、外観からは一連の建物として認識されるような工夫がなされ、庭側からは渡り廊下によって2棟が繋がれているように感じられないよう周到に設けられています。

調査は、れきけんメンバーに加え北大・建築史意匠学研究室の学生9名が参加し、さらに建築 Heritage サロンの野田左官店・野田肇介さんにも同行いただいて、総勢18名の大所帯で、大野土建関係者の方々、士別市役所の方々のご協力をいただきながら進められ、実測調査は旧状を良くとどめている住居兼事務所棟に絞り行いました。本調査の主眼は本建物の歴史的・文化的価値の評価にあります。建築履歴にも興味深い調査結果が得られました。南妻面から北へ1間半程の同じ位置で、梁、淀、基礎が継がれ、同位置の小屋組みのみが、漆喰が付着している妻面と同じ小屋組みとなっていることが確認されました。また南北の妻面の漆喰の下地が異なることから、南北の妻面の漆喰は異なる時期に施工されたとの野田さんの指摘が加わり、本建物の南面はある時期、事務室及び応接室を分断する位置となる、現況南面から1間半程度北の位置であったことが推察されました。次に床下を覗いてみると、束が継ぎ足され、大引きが2段に組まれおり、これは一般的な床組ではない為、床の高さが現況より低い時期があった可能性もあると考えられます。これらの建物履歴に係る調査結果と、昭和8年ころに庭側から撮影された写真に現況と同様の外観が確認されることより、昭和2年の創建当初の形状は、昭和8年の形状と、かなり異なったものであった可能性もあると考えられるところです。

末筆ながら、本調査にご協力をいただきました大野土建関係者の方々、士別市役所の方々、北大・建築史意匠学研究室の学生諸君にあらためて厚くお礼申し上げます。（照井康穂）



●日本民俗建築学会平成29年度公開シンポジウムに参加して

10月21日（土）に一般社団法人日本民俗建築学会主催のシンポジウム「茅葺民家の継承と地域創成一豪雪地域における活性化の可能性」に参加した。会場はJR奥羽本線湯沢駅から車で10分の距離の羽後町文化交流施設・美里音（みりおん）多目的ホール。シンポジウムは、秋山晴子学会副会長、安藤豊羽後町長の挨拶ののち、相模誓雄実行委員長（仙台高専準教授）の趣旨説明で開始された。基調講演者の温井亨東北公益文科大学教授から、秋田県と山形県の近年における職人育成事業の紹介があった。この地域（山形県、秋田県、青森県津軽地域など）の茅屋根は全面葺替ではなく、屋根の1/4ないし1/6の傷んだ茅を取り替える差し茅方式をとる。秋田県では羽後町と仙北市で2009～2011年度に国の緊急経済対策「県ふるさと雇用再生臨時対策基金」を活用して、羽後町では羽後町観光物産協会を事業者、仙北市では秋田茅葺き文化継承委員会を事業者を選定して実施し、それぞれ2名と1名の職人を育成している。また岩手県では1997年に活動を開始した岩手県茅葺き促進委員会（2001年NPO法人取得、2009年解散）が2004～2006年に金ヶ崎町と契約して5人の職人を育成した実績があり、この活動を引き継いでNPO法人北東北茅葺きネットワークが2009年に設立されている。



温井氏に続き、中田一彦氏（秋田魁新報社・ビジュアル報道部長）と阿部久夫氏（羽後町議会議員）が報告し、中田氏は、羽後町の茅葺民家は1988年259棟、2011年80棟、2016年61棟（うち42棟居住）と推移したこと、羽後町の現状を取材した「『かやぶき賛歌』羽後町の四季」（2011.6.6～2012.2.29）でかやぶきの里の四季折々の魅力を報告された。阿部氏は、平成19年7月「田舎に泊まろう」の番組取材で俳優の榎本孝明さん訪問で初めて茅葺民家の価値に気づき、以来茅葺民家保存運動を開始、茅葺民家住民の懇談会開催、茅葺職人の状況調査実施のほか、平成20年12月議会の一般質問で「茅葺民家は貴重な文化遺産であり観光資源」「茅葺屋根の補修に補助金を」「茅葺職人の育成が急務」と提案。当時の町長は「補修費用の3分の1の補助」「給料20万円を3年間支給し職人二人を育成」という政策の実行があったこと。また旧長谷山邸（主屋明治15年、土蔵明治35年）向かいに独居のおばあさんから茅葺民家を託され、その保存を模索したものの実現できず、やむなく個人所有にして、息子名義で「かやぶき山荘格山」とした経緯が報告された。翌22日（日）は羽後町の有名な西馬音内（にしもない）の盆踊り会館のほか、多くの茅葺民家と茅葺職人の仕事を見学し、国の選定も受けていない羽後町で、茅葺民家を町の資源として保存しつつ活性化していこうとする町民の熱い想いに触れることができた。（角 幸博）

●れきけん研修ツアーの報告「聴竹居を訪ねて」

全国HM大会の京都での滞在中に、研修として「今後の活動にプラスになる行動をしよう！」ということで、12月9日大山崎町にある「聴竹居」の見学に行きました。聴竹居は、近年竹中工務店が取得し、今年の7月に重要文化財になりました。今回はお忙しい中、（一社）聴竹居倶楽部代表理事の松隈章さんが、見学対応の時間を取ってくださいました。それというのも松隈さんは北大のご出身で、北海道に深い縁がある方だったのです。



聴竹居は、藤井厚二の設計、選んだ材料、竹中の大工さんの仕事の一つ一つが素晴らしく、計算され尽くした中に日本や茶室の風情を感じ、繊細で丁寧な仕事に感心しました。また建物を守る地域の皆さんを中心に作った組織、聴竹居倶楽部の皆さんの熱意と温かさにも感動しました。保存と活用が、本当に身近な地域で成されている好事例だと思います。ここは建築に関わる方、すべての方に見てほしいと思った建物でした。内部の写真撮影は禁止なので、ぜひ現地へ行って、確認していただければと思います。松隈さん、田邊さん、ありがとうございました。（東田秀美） ●聴竹居（見学は完全予約制） <http://www.chochikukyo.com/>

●全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会in京都に参加して

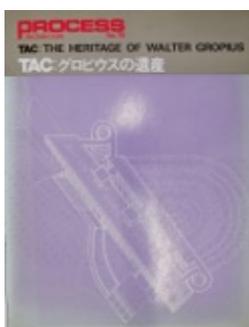
全国のヘリテージマネージャー（以下、HM）の仕組みは、HMの有資格者個人とHM自ら活動をする地域ネットワーク団体と、HM講座の各地事務局組織＝各地の建築士会等、NPOれきけんもその一つ＝賛同団体などに分かれています。それらの中で、地域ネットワーク団体と賛同団体が「全国HMネットワーク協議会」を作って、年に一度の総会と全国HM大会を開催しています。その協議会の賛同団体として、NPOれきけんメンバー3名が総会と全国大会に参加してきました。

12月7日夜、「第6回全国HMネットワーク協議会総会」会場である京都文化博物館の見学会で、バックヤードや小屋裏まで見ることができました。その後1階で総会が開催され、120名のHM関係者が集まりました。運営委員長の後藤先生の挨拶から始まり、報告事項として協議会の現状報告や各ブロックからの報告、熊本と鳥取地震での活動報告がありました。協議事項として、文化財保護法改正に基づくHMの役割拡大についての活動、活動計画としてメリスの活用や隣県のHMのルールづくりなどについて話されました。また次回開催地である、埼玉県の方の皆さんのご挨拶もありました。その後は、場所を変えて大交流会が開かれ、全国から集まった多くのHMの皆さんとの交流を楽しみました。

8日午前中は、京都勧業館で「全国HM大会」が開催されました。今年のテーマは「歴史的建築物の活用による地域創生」で270名の参加があり、大入り満員になりました。事例報告として、（一社）ノオト代表理事の金野氏、京都のKOMO代表の桐浴氏、奈良ヘリテージ支援センターの米村氏、ひょうごヘリテージ機構H²Oの沢田氏の4名から、さまざまな角度や切り口による活用報告がありました。その後、協議会副委員長の塩見氏から、今後の展望についてのお話があり、大会は終了しました。来年は埼玉県、そして再来年は北海道函館市での開催になります。北海道のHMの皆さんも、ぜひ大会に参加してみませんか？（東田秀美）



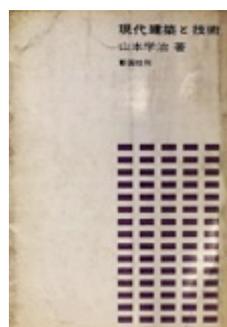
●おすすめ・れきけんBook ～れきけんアーカイブ田上義也蔵書より～



■グロピウスの遺産
■発行所：(株)プロセスアーキテクチュア



■建築画報 北海道の建築
1972年1月



■現代建築と技術
■著：山本学治
■発行所：彰国社



■万人のための詩
■著：ポールエリュアール
■訳：安東次男
■発行所：(株)青木書房

れきけんは、2012年12月の設立から5年。あっという間でしたが、会員の皆さまに支えられ、活動を継続することができました。改めて感謝申し上げます。2017年も残すところあとわずかとなりましたが、新年が皆さまにとってより良い年となりますよう、また引き続き、れきけんを応援くださいますようお願いし、年末のご挨拶とさせていただきます。2017年もありがとうございました。新しい年も良き一年となりますように。（神）